

日本のタイヤ産業の創立と育成

石橋 正二郎



石橋正二郎氏は、明治22（1889）年2月1日に九州・久留米市に生まれる。その日は旧暦正月二日であったことから、正二郎と名付けられたという。家業は屋号を「志まや」という仕立物屋、ちなみに明治22年は大日本帝国憲法が公布された年である。明治39年（1906）久留米商業学校を卒業、神戸高商（現・神戸大学）進学を志すが父の懇望により断念、兄とともに家業を継いで家業の近代化を図ることになった。まず家業であった種々雑多な品物の注文に応じる非能率的な仕立物業に見切りを付け、足袋専業とし、さらにそれまでの因習であった昔からの徒弟制度を排し、賃金制度に切り替えて従業員の向上心を高めている。明治41年には新工場を設営、石油発動機を設置して縫製ミシンを動力化し、併せて裁断機も導入し能率の向上に努めた。明治42年には足袋の売り上げは年間23万2000足となり、7000円もの利益を挙げた。明治45年7月30日明治天皇崩御、大正と年号が変わった。この年、九州で初めての自動車を2000円で東京から購入、足袋の広告宣伝に使用して評判となっている。

このように石橋氏は率先して企業の近代化を図り、業績が上がるや大正3年（1914）「志まやたび」を「アサヒ足袋」と改称して「波にアサヒ」の登録商標も設定、9月には足袋の種類やサイズごとに設定されていたあいまいな価格制度を「20銭均一販売」とし、それまでの足袋業界で習慣とされてきた販売方法を一新した。

大正7年には資本金100万円の新会社「日本足袋（株）」に発展するが、順風満帆の経営も第一次世界大戦後の世界的不況のあおりを受けて一時的に苦境に陥る。この苦境を脱する方策として新製品開発によって潜在的需要を掘り起こし、大きく販路を広げようと考え、縫い付け式ゴム底足袋を製品化、さらにこれを改良し「張り付け式ゴム底足袋」として実用新案を出願「アサヒ地下足袋」として大正12年に発売している。同年には布製ゴム靴（ズック靴）の製造も開始した。これが日本の学童用として普及し、昭和2年には地下足袋1000万足、ゴム靴250万足に達した。

タイヤの生産に関わる以前の石橋正二郎氏の足跡に触れたのは、布製の足袋からゴムを縫い付けた足袋へ、それをゴムを張り付けた足袋へと進化させ、日本人の労働者や児童の足元を固める大ヒット

商品としたことに氏の新規事業への開拓者精神が窺え、またズック靴の製造など多量にゴムを素材として使っていたことから、やがて来るであろうモータリゼーションを確信しつつ、自動車の足元も固めるタイヤの製造へと、氏の意欲が移っていったと考えられるからである。

石橋氏に自動車タイヤの製造を決意させたのは、昭和3年のことであったが、翌4年にはアメリカにタイヤ製造用機械類を発注する傍らで、日本足袋（株）の倉庫約2600平米を改造してタイヤ試作の準備を開始している。昭和5年4月には純国産自動車用タイヤ第一号（サイズ＝29×4.50、4P）が早くも完成した。昭和6年（1931）には資本金100万円で、石橋を英国風にもじった社名「ブリヂストンタイヤ（株）」を設立しタイヤの本格生産を開始、翌年には当時の商工省から優良国産品の認定を受けたという。また米国のフォード、ゼネラルモーターズ、クライスラーの3社もブリヂストンタイヤを採用するに至り、製品の優秀性を証明した。昭和10年には自転車用タイヤの製造も開始、またゴルフボールの製造も開始している。石橋正二郎氏の雄図がなければ、日本の自動車もまた戦中、戦後共にタイヤの払底に悩み、大きな進展も望めなかったであろう。常に近代的な生産体制を確立しつつ、氏のあくなき前進への意欲が、自動車の発展をも支えてきたと言えるだろう。（本宮有樹）

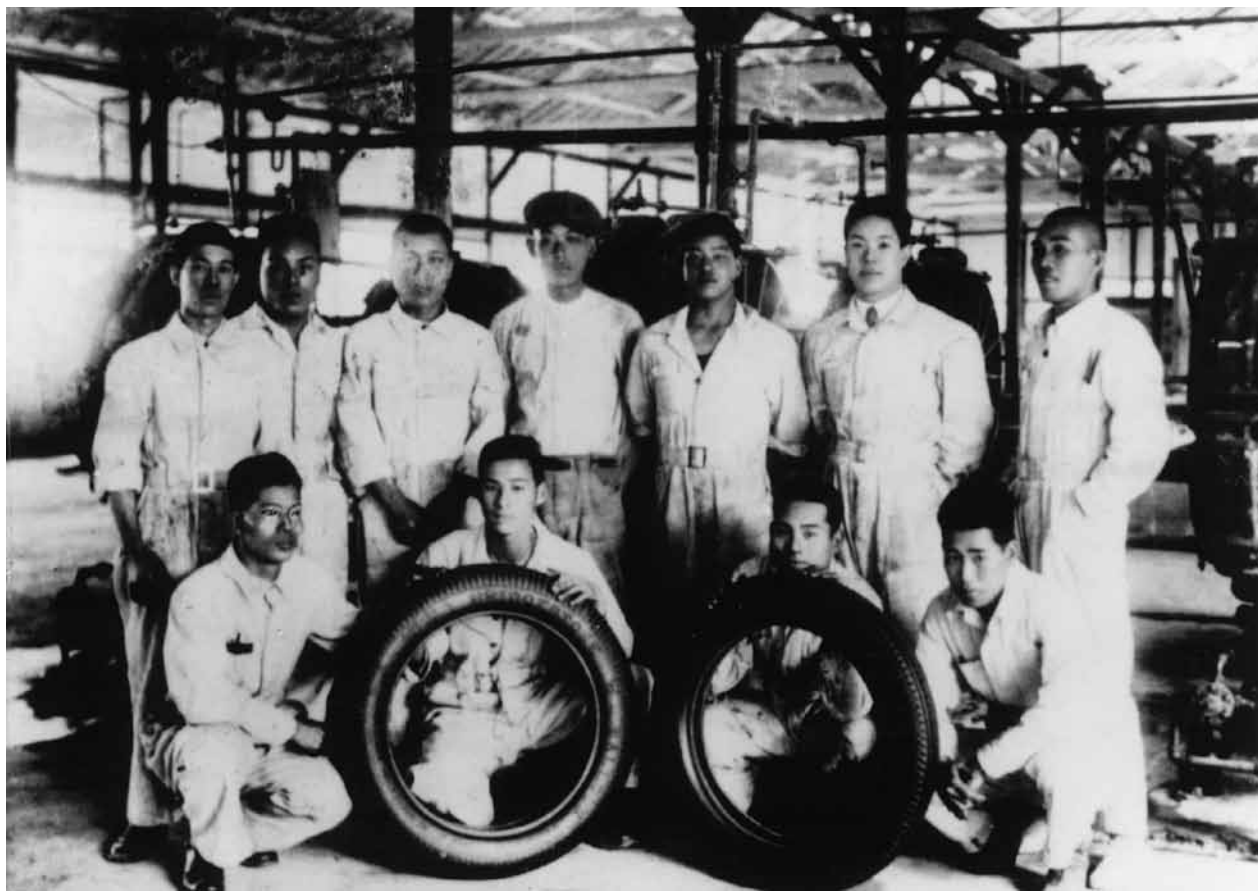


日本足袋の倉庫を改造したタイヤ仮工場

石橋 正二郎(いしばし しょうじろう) 略歴	
明治22年(1889) 2月1日	福岡県久留米市に生まれる
明治39年(1906) 3月	久留米商業学校卒業 家業に従事
大正3年(1914)	家業「志まやたび」を「アサヒ足袋」に改称
大正7年(1918) 6月	日本足袋(株)設立 専務取締役就任
昭和5年(1930) 2月	取締役社長に就任
昭和6年(1931) 3月	ブリヂストンタイヤ(株)創立 取締役社長就任
昭和9年(1934) 3月	久留米工場竣工
昭和11年(1936) 11月	青島工場建設
昭和12年(1937) 3月	東京に本社移転
昭和17年(1942) 2月	社名を日本タイヤ(株)と改称
昭和26年(1951) 2月	社名をブリヂストンタイヤ(株)に復旧
	ブリヂストン自転車(株)会長に就任
昭和27年(1952) 1月	ブリヂストンビル落成 ブリヂストン美術館開館
昭和31年(1956) 4月	財団法人石橋財団設立 理事長就任
昭和38年(1963)	ブリヂストンタイヤ(株)代表取締役 取締役会長就任
昭和48年(1973)	ブリヂストンタイヤ(株)取締役相談役就任
昭和51年(1976) 9月11日	没 享年87歳



仮工場でのタイヤ製造



第一号タイヤ誕生の記念写真

1932～1933年頃のポスター



竣工した久留米工場



建設中の久留米工場に立つ石橋正二郎氏